

百濟聖王即位 1500 年記念

고구려

日韓文化講演会

「日本と百濟の交流史に学ぶ

21世紀の日韓関係」

百濟文化の伝道師 & 日韓交流の達人

ホン マンピョ
洪 萬杓 氏

〔地域政策学博士〕

講師

日時 2024 年 4 月 27 日(土)

14:00~16:30 (開場 13:40)

場所 アイーナ5階 会議室 501

参加費 なし (資料代 200 円)

参加申込/連絡先

盛岡ハングルを学ぶ会事務局

Email morioka@hangul.ptu.jp

Tel 019-626-1421

(参加者のお名前、連絡先をお伝えください。上のフォームからも申込可能です)



講師プロフィール

韓国・忠清南道に入庁後、2022 年までの 17 年間にわたり忠清南道の貿易、観光事業、自治体間の交流に奔走し多大な成果をあげた。特に日本の自治体との交流を促進するため日本全国を駆け巡り相互の地域の魅力を語り合ってきた。また「百濟文化の伝道師」として、日本各地で百濟文化と日本との関係に関する講演・シンポジウムを展開。

主催 盛岡ハングルを学ぶ会

後援 (公財)岩手県国際交流協会、岩手県日韓親善協会、

日本韓国語教育学会



百濟 백제



7世紀後半まで朝鮮半島にあった国家。半島北部に高句麗、南東部に新羅が存在した「三国時代」の国家の一つであり、3～4世紀に日本に「七支刀」を贈るなど、日本と親密な関係を持っていた。

^{ハンソン}漢城(現在のソウル)、^{ウンジュン}熊津(現在の忠清南道公州市)、^{サピ}泗泚(現在の忠清南道扶餘)と遷都しながら、中国の南朝や隋と密接な関係を結び、仏教や中国の文化・学問を導入して栄えた。538年には日本に仏教を伝えた。また日本書紀や古事記では百濟の王^{わに}仁博士が「論語」(儒教の経典)、「千字文」(漢字の教本)を伝えたと記している。660年に唐と新羅の連合軍に破れ滅亡後、百濟の復興をめざし日本からも3万の援軍が赴き戦ったのが「^{はくすきのえ}白村江の戦い」である。

1971年に第25代王・武寧王^{ムニンワン}の陵墓が完全な姿で発見されたことは世界の考古学界でセンセーショナルな話題となった。武寧王と王妃の棺は日本の高野槇(コウヤマキ)という高級木材でできていた。



朴振・外交部長官に日韓外交正常化60周年のプレイベント開催を提案する洪氏(2023年12月)

講師 洪萬杓氏の紹介

1964年生まれ。地域政策学博士。忠清南道に入庁後、経済通商室国際通商課・アジアチーム長や課長を歴任。忠清南道の貿易を飛躍させると共に日本の自治体との交流に力を注ぐ。2023より世宗特別自治市の海外協力官に着任。韓国では民官疎通委員会委員、K-POP高等学校主席諮問委員。

日本では静岡県ふじのくに親善大使、NPO法人市民ガバナンスネットワーク理事、2011-2021 明治大学市民ガバナンス研究所研究推進員、NPO法人東アジアネットワーク共同代表、大阪商業大学比較地域研究所客員研究員、(社)日本ベトナム経済交流センター主席研究員。2019年に日本の外務大臣表彰を受賞。

聖王 성왕

百濟の第26代の王で、武寧王の子である。『日本書紀』には武寧王の死去の翌年524年正月に即位したと記されている。538年に首都を泗泚(扶餘)に移し、中国の南朝(梁)の文化を受け入れ、日本との交流を盛んに行った。仏教や阿弥陀如来像などを日本に伝えた。

